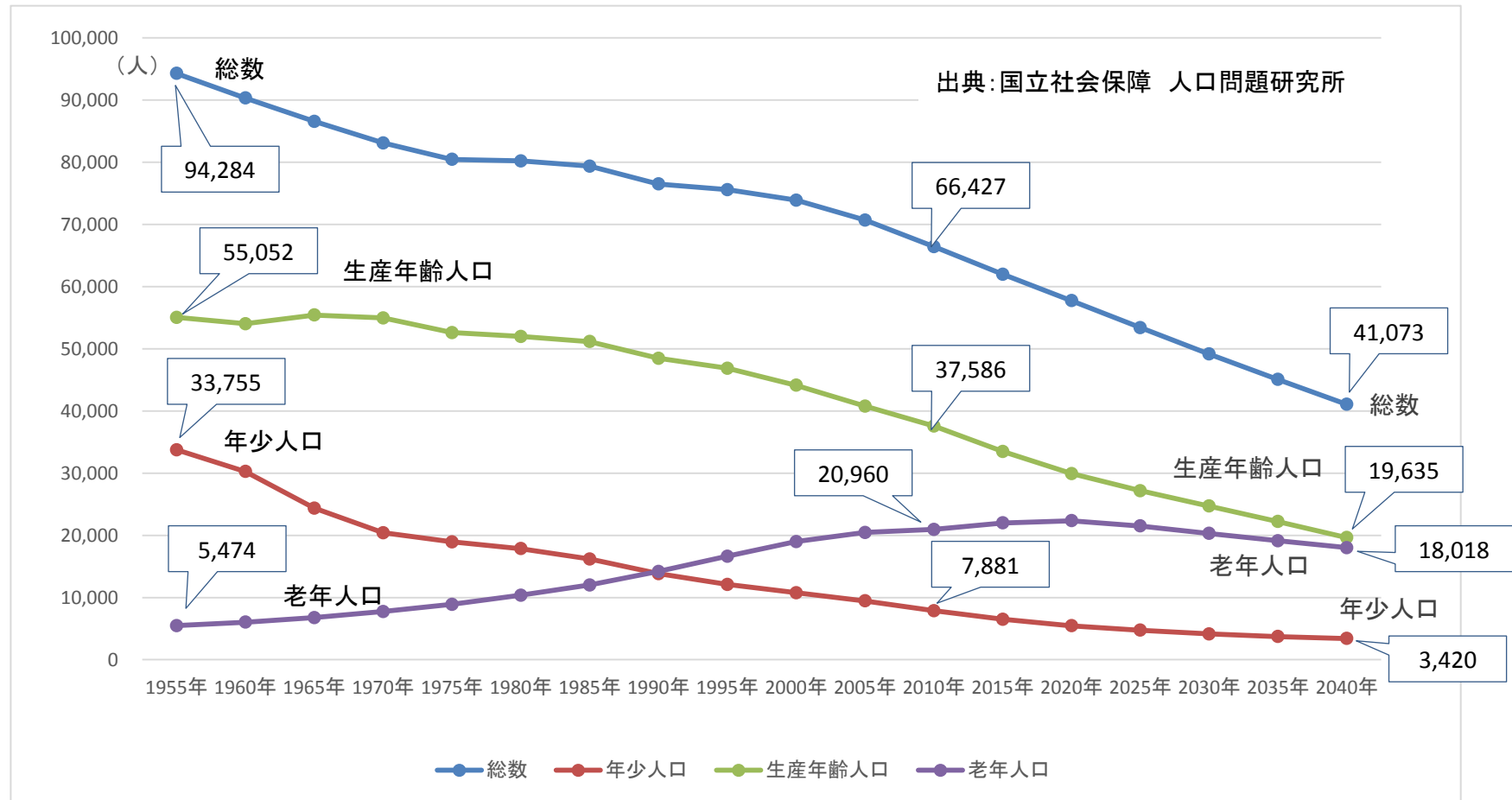


# 村上市人口推計状況の概要

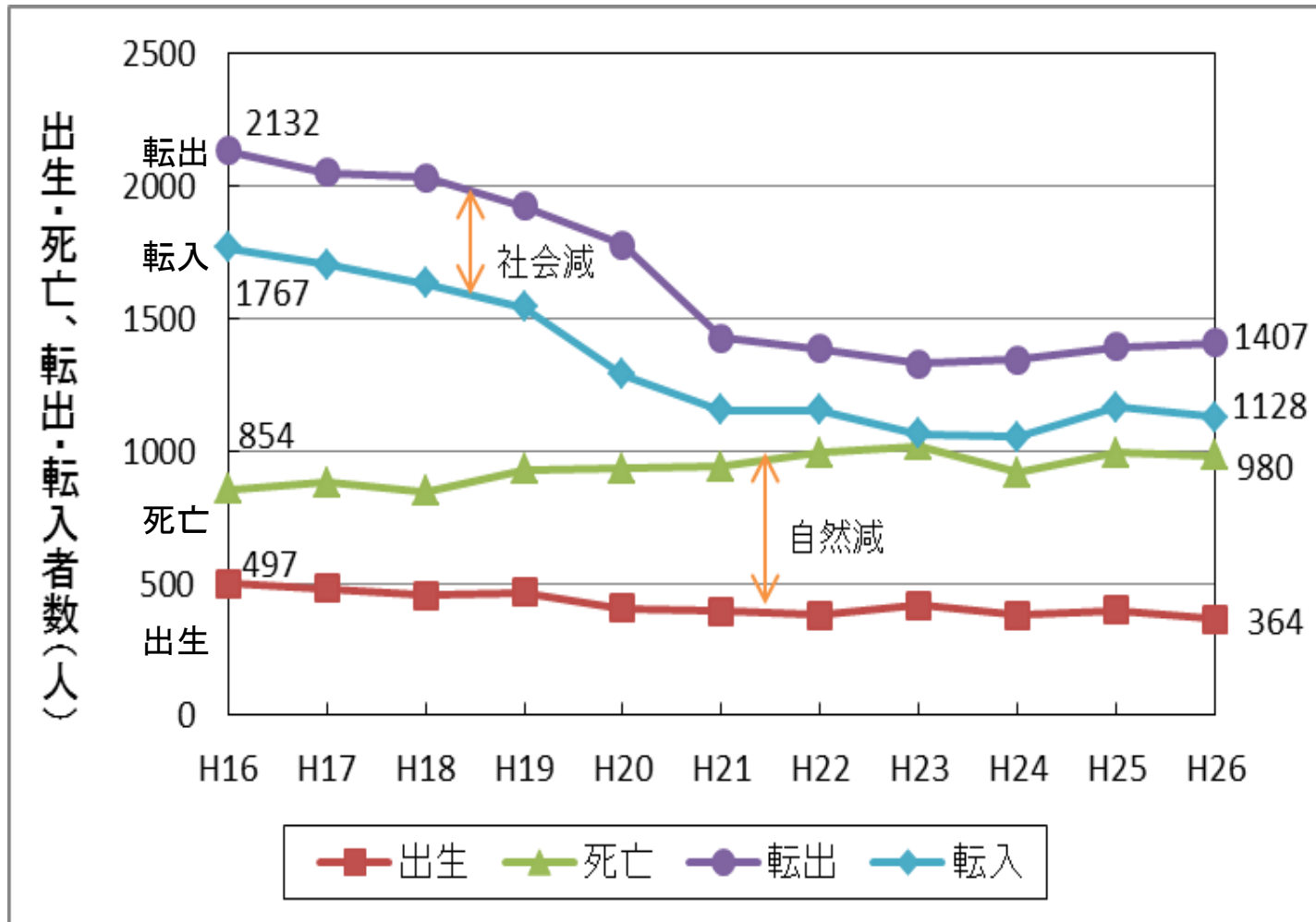
数値等は6月12現在のものであり、今後修正する場合があります

# 総人口・年齢3区分人口の推移



- 総人口は1955年(昭和30年)頃をピークに減少を続けている。
- 年少人口は、このままの減少が続けば2040年には2010年の半数となることが予想される。
- 生産年齢人口は1965年(昭和40年)頃から減少傾向となり、2040年には老年人口とほぼ同数と予想される。
- 老年人口は2020年(平成32年)頃にピークを迎え、その後は減少に転じる見込み。

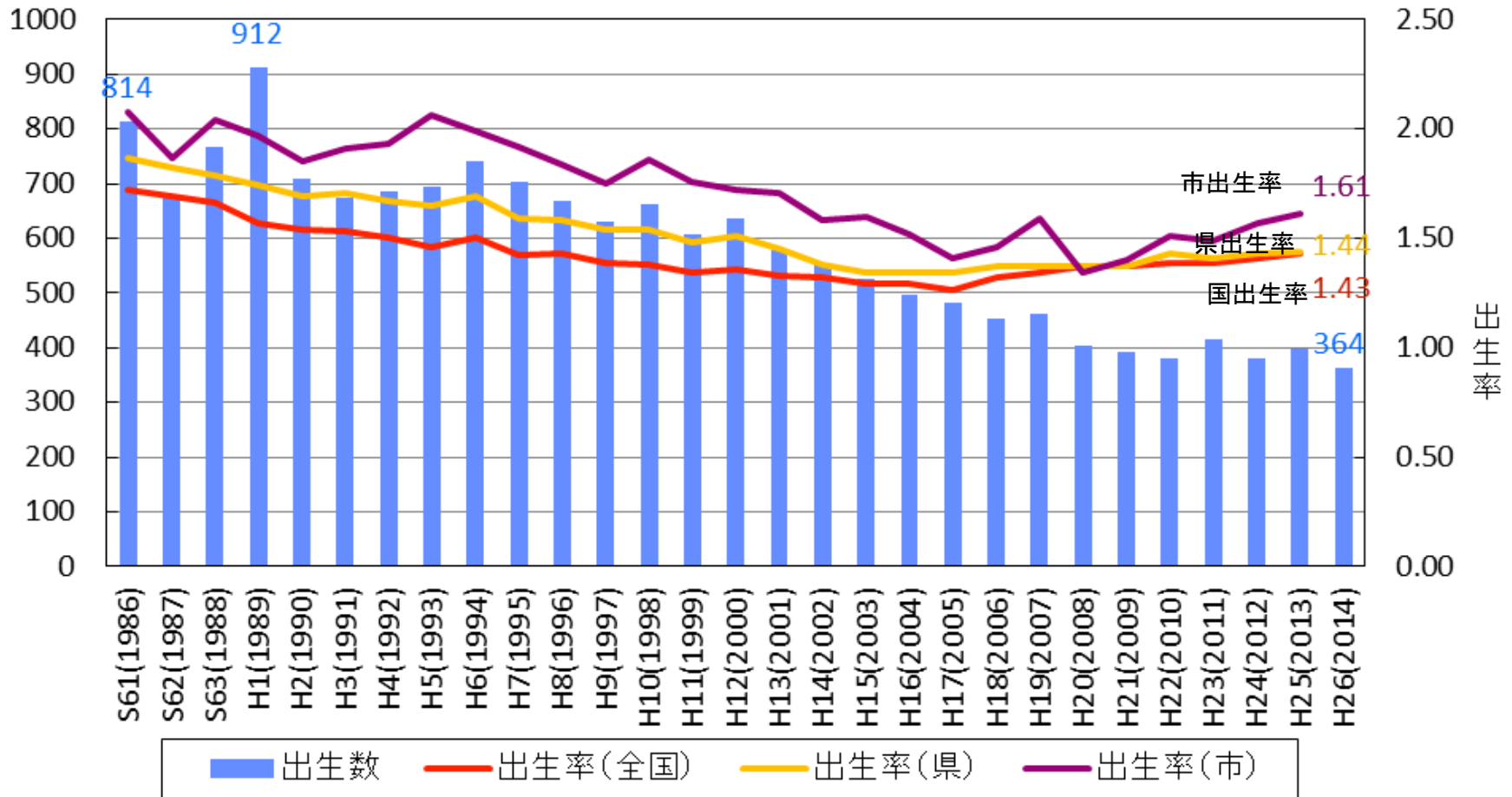
# 出生数・死亡数、転入者・転出者の推移



出典:新潟県保健福祉年鑑

- 出生数は減少しているのに対し、死亡数は高齢化に伴い、増加している。
- 自然減の数は増加傾向。
- 転入者が転出者を上回ることがなく、常に社会減の状態だが、社会減の数は減少傾向。

# 合計特殊出生率と出生数の推移

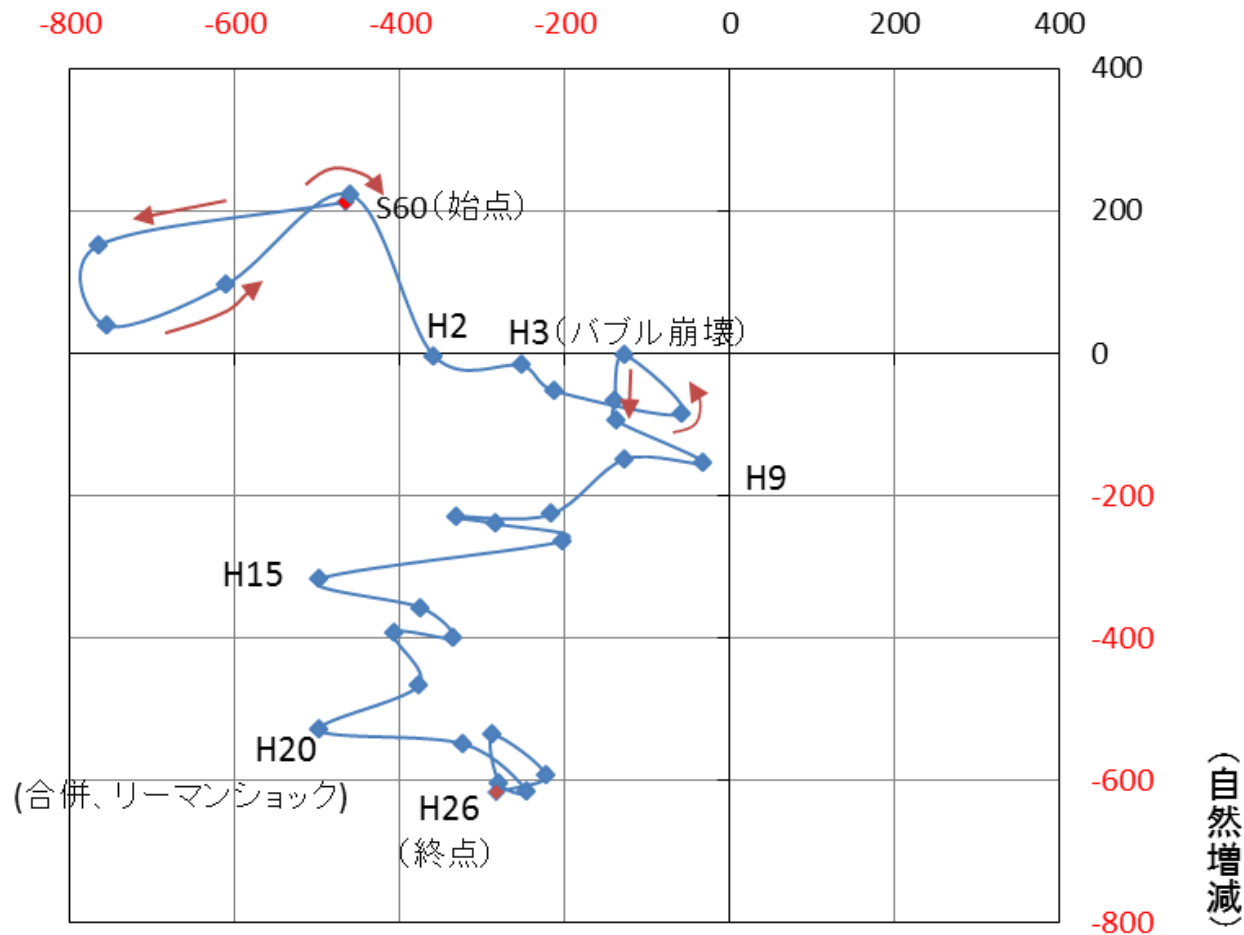


資料:新潟県保健福祉年鑑

- 合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子供の数)は全国や県の数値より高く推移している。
- 全般的に出生数は減少しているが、近年は横ばい又は微増。

# 自然増減、社会増減の状況

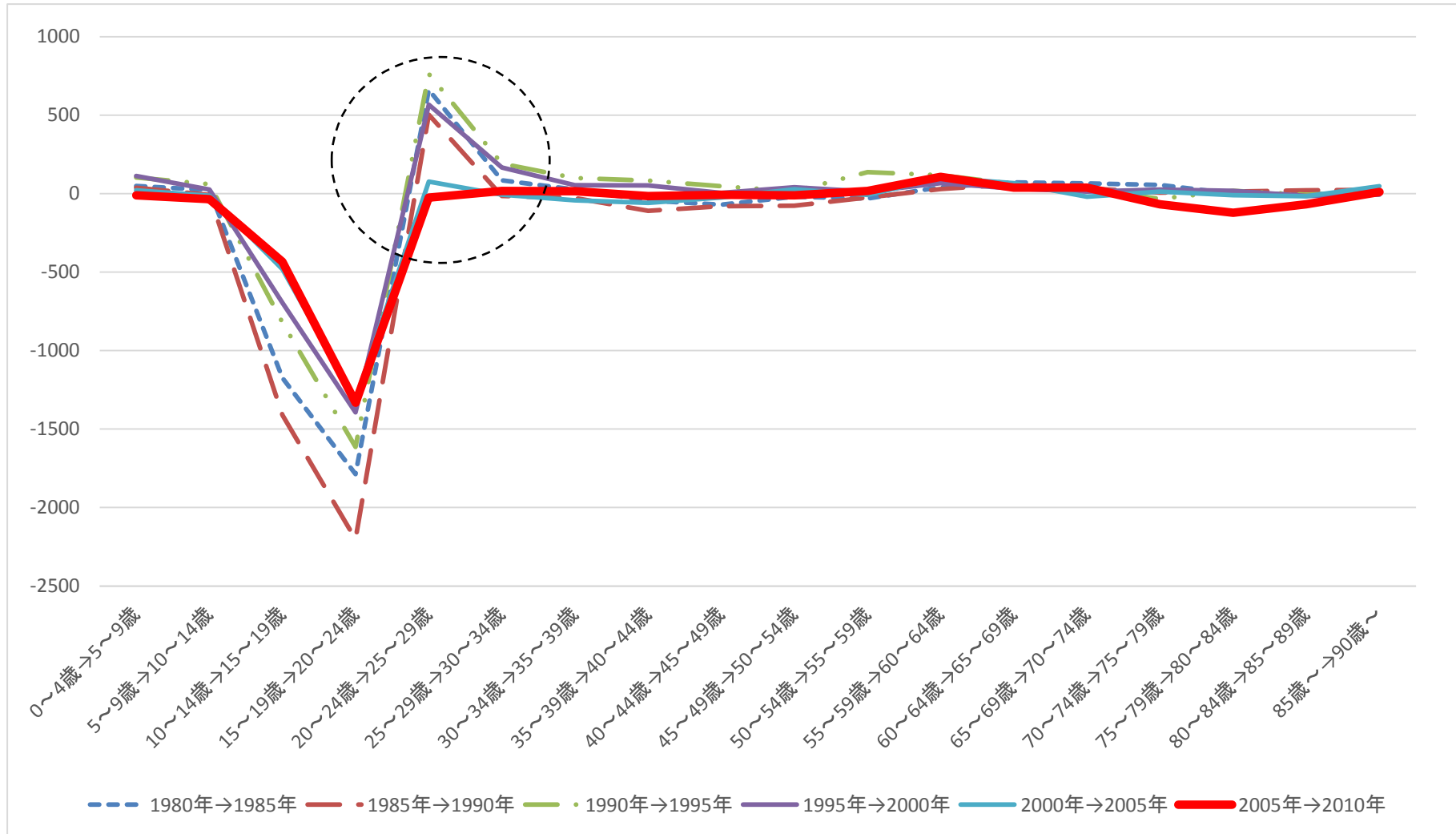
(社会増減)



出典：新潟県の人口移動

- 平成2年以降は、自然減少に転じ、自然増減及び社会増減共に減少となっている。
- 平成21年以降は、動きがない。

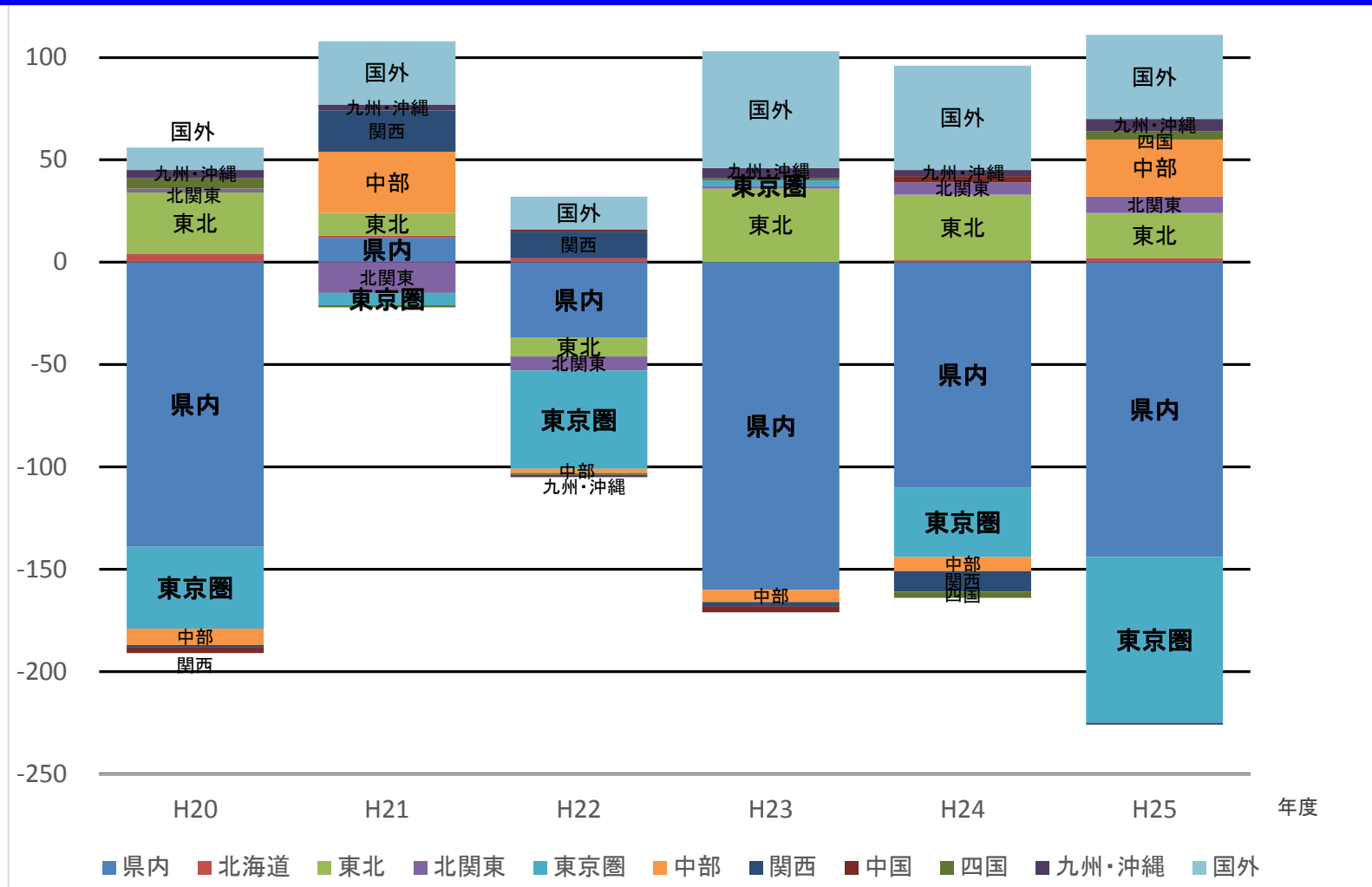
# 年齢階級別の人口移動の年次変化



出典: 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部提供データより

- 1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)のバブル景気の際には、最も大きな転出超過となった。
- かつては20代後半の就職時期にUターンによる転入超過の傾向が見られたが、近年は減少していることがわかる。

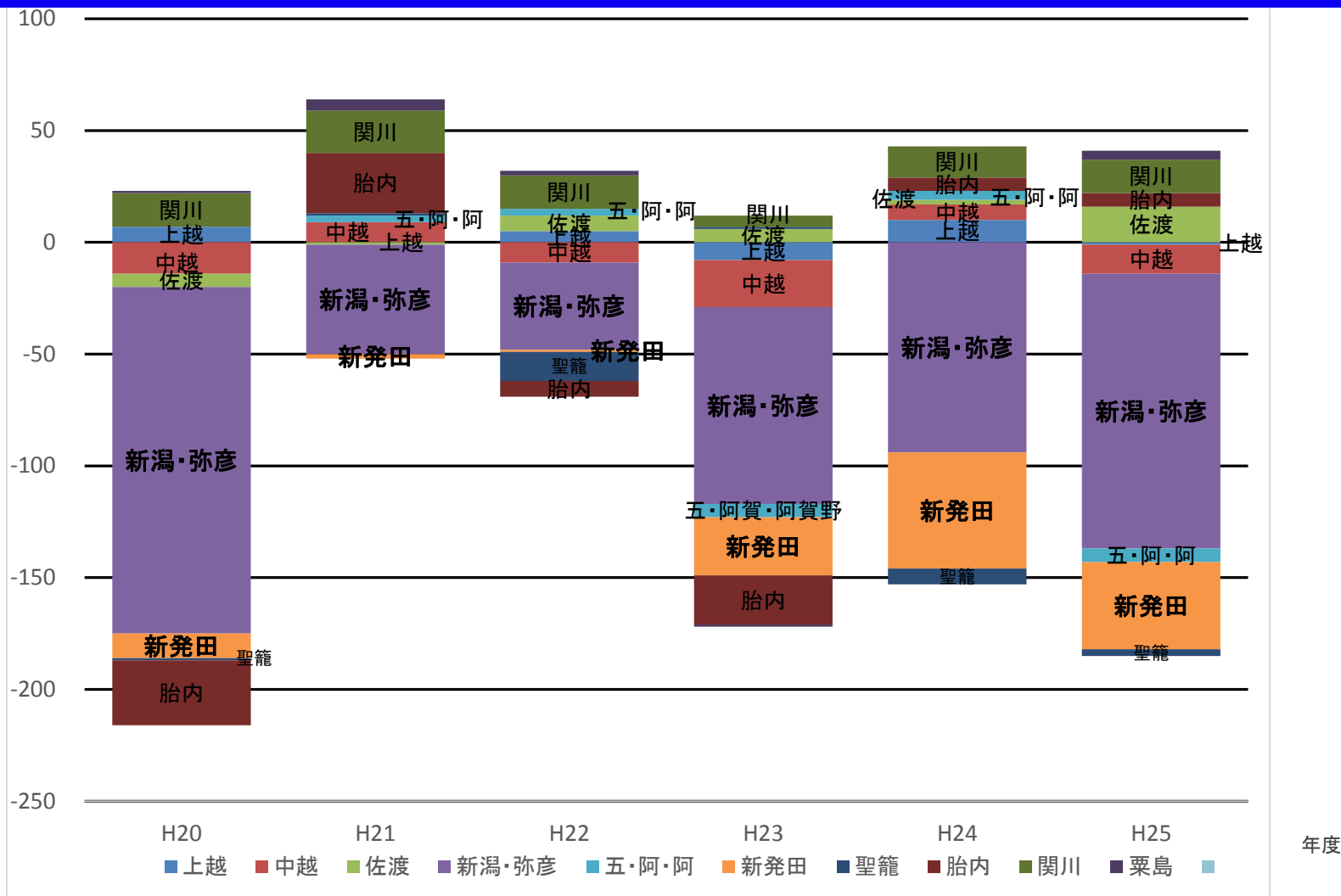
# 転入、転出の状況(村上⇔全国への移動状況)



出典: 村上市移動データから(4/1基準)

- 村上市からの転出先は、県内が大多数。次いで東京圏が多い。
- 村上市への転入は東北地方(山形県や福島県)からが多い。

# 転入、転出の状況(村上⇔県内の移動状況)



出典: 村上市移動データから(4/1基準)

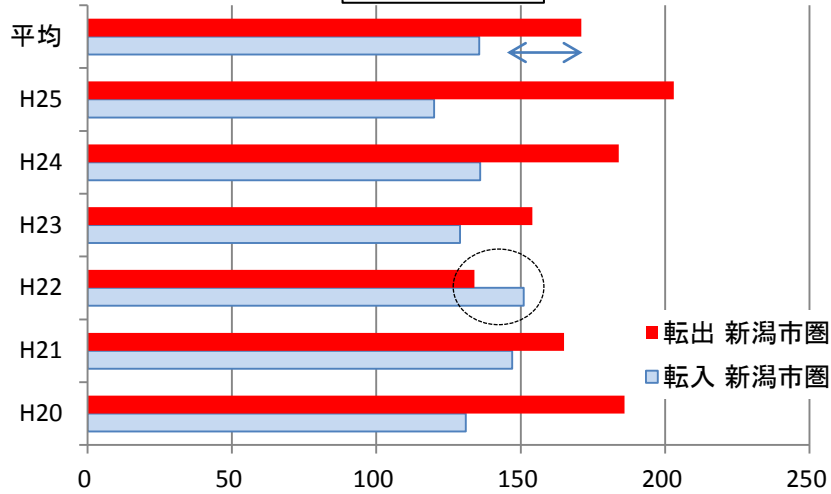
- 村上市からの県内地域別の転出先は新潟・弥彦地域が大多数。次いで新発田地域が多い。
- 村上市への県内からの転入は関川村が多い。



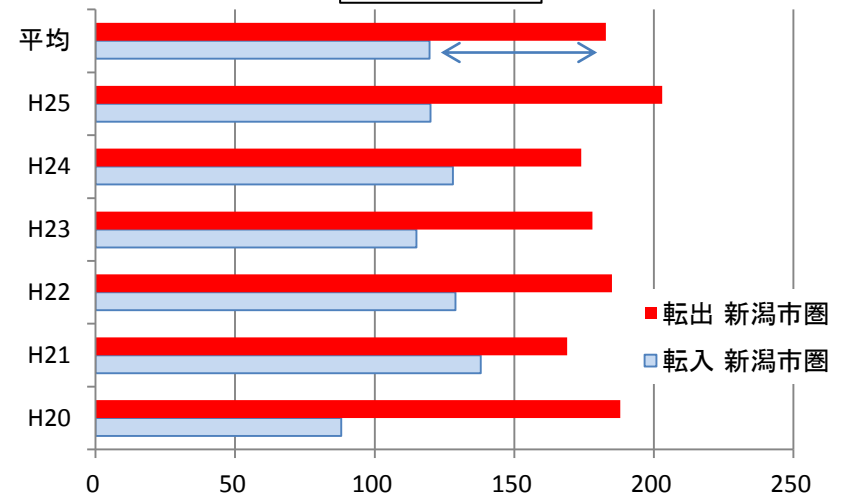
# 転入、転出の状況（男女比較）

出典：村上市移動データから  
4/1基準

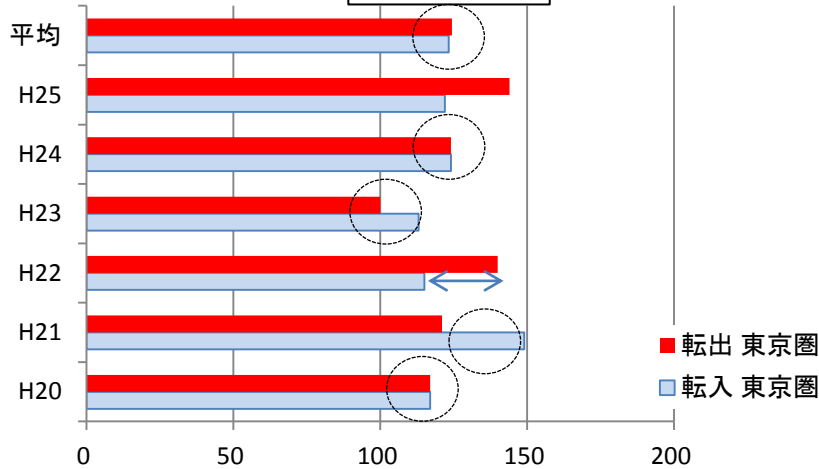
男性 新潟市圏



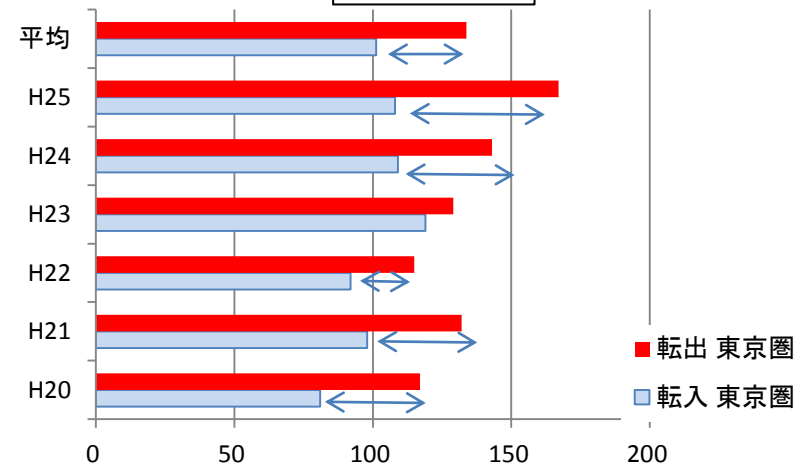
女性 新潟市圏



男性 東京圏

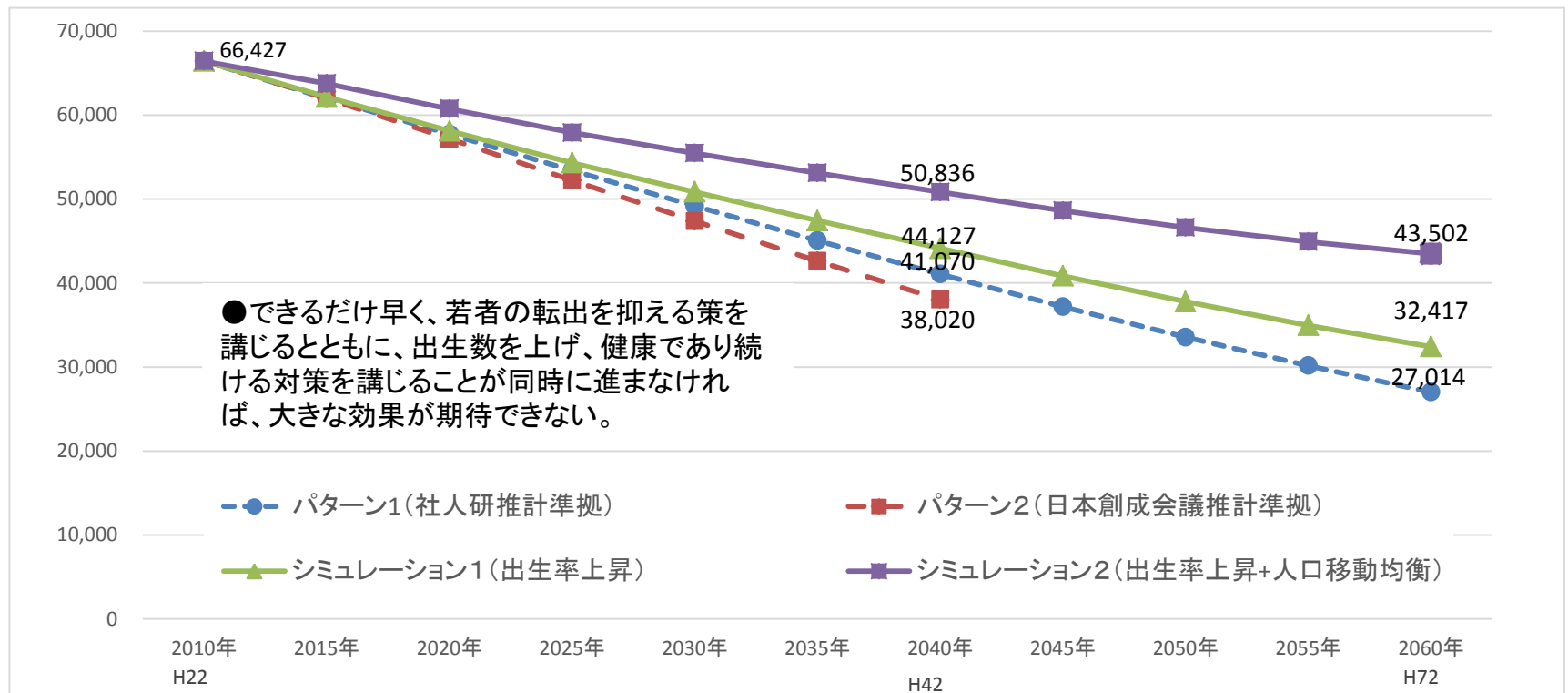


女性 東京圏



●男性に比べ、女性の転出超過の幅が多い。男性の東京圏転出では、平均すると転出と転入の差がわずかである。

# 将来推計人口



パターン	推計方法
パターン1 (社人研)	全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計
パターン2 (日本創生会議)	全国の総移動数がH22~27年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計
シミュレーション1	パターン1をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準の2.1)まで上昇した場合のシミュレーション
シミュレーション2	合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が均衡した場合のシミュレーション